

★ 特集：全国左官技能競技大会と技能伝承・人材育成の取り組み ★

インタビュー

## 変革の時代だからこそ、左官技能の継承と研鑽を

—日左連における人材育成と技能継承のための取り組みについて—

一般社団法人日本左官業組合連合会 石川 隆司 会長に聞く

人手不足と人材育成の問題は、建設業における大きな課題の一つといえる。業界団体では職人の社会的地位の向上と就労環境処遇改善に向けた取り組みのほか、働き方改革の周知を行なうことで担い手確保に向けた取り組みを推し進める一方で、新技術の習得や高度な専門技能の伝承により様々なニーズへ対応できる技能者の育成し、左官業種の裾野を広げる取り組みを行っている。

そこで本稿では(一社)日本左官業組合連合会の石川隆司会長に人材育成と技能継承の取り組み、その事業の大きな柱の一つとなっている全国技能競技大会について、今後の展望などについて話を伺った。(編集部)



▲「左官技能を研鑽し、生産性の良い仕事を産み出していくことが、左官仕事の価値を向上させていきます」と語る石川会長

### 技能継承と研鑽、技能者育成を

—人材育成と技能継承からみる全国左官技能競技大会の意義について教えてください

現在、行政が行っている人材育成と技能継承の動きとして、厚生労働省では所管団体である中央職業能力開発協会が主催する技能グランプリのほか、技能五輪全国大会が開催されています。日左連では技能グランプリと技能五輪全国大会、それと主催の全国技能競技大会との共催が難しいため、技能グランプリには参加していませんが、技能五輪全国大会は2年に一度開催されている国際技能競技大会の予選も兼ねているため、技能伝承と継承の取り組みの一環として取り組んでいます。

このほか厚生労働省では技能士育成の取り組みとして、国家資格としての技能士資格の認定があります。これは建設業35種で専任技術者の資格がとれるものです。また、国土交通省では登録基幹技能者認定講習会があります。登録基幹技能者は、建設キャリアアップシステムにおけるレベル4の

高度マネジメントレベルに相当するため、技能者の地位向上という観点から非常に重要な取り組みの一つといえるでしょう。日左連では既に2,750名の登録基幹技能者が認定されていますが、現在、左官職人が約4万人といわれていますので、職人の1割程度、3,500人くらいは登録基幹技能者に認定してもらい、スーパー職長として活躍してもらいたいと思っています。

こうした行政が進めている人材育成や職人の地位向上へ向けた政策への協力のほかに、日左連が行なう人材育成と技能継承の事業において最も重要な事業の一つが2年に一度開催される全国左官技能競技大会です。

これは左官の伝統工法を次代に継承していく取り組みの一つです。全国各ブロックから推薦された選手が参加し、野丁場、町場、商業施設、文化財、寺社仏閣の各分野のほか、事業所規模も様々な選手が代表して競技に参加します。競技課題についても最高難度の課題で左官工種13工種を網羅し、競技時間は3日間、合計18時間46分で競い合います。左官技能の保存・伝承・継承のほか、これからの業界発展の